

## 調査の特徴

### 1. 調査手法

学校外学習に今まさに取り組んでいる小・中学生ではなく、自分の経験した学校外学習について客観的に評価できる大学生を対象としたことが、この調査の特徴である。それによって、“やっている当時は嫌だったけど、今になってみるとやっていたよかった”ものなど、時間の経過による学校外学習への評価の変化やその効果を見ることができた。

### 2. 学校外学習の分類方法

第1章～第3章で取り上げた学校外学習を、第4章で7分野に分けて分析した(下記参照)。

また、今回の調査は、対面式の学校外学習に絞っているため、通信教育は選択肢に入れなかった。

#### 第1章 一般的な習い事 (Q1～Q3)

スイミングスクール、剣道、柔道、テニス、野球、サッカー、スポーツクラブ・体操教室、バレエ、リトミック、楽器、幼児向けの音楽教室、お絵かきや造形教室、習字、英会話などの語学教室や個人レッスン、児童館など公共施設での自治体主催の教室・サークル、そろばん、受験が目的ではない幼児教室やプレイルーム、地域のスポーツチーム、その他

#### 第2章 学習系習い事 (Q4～Q6)

計算・かきとりなどのプリント教材教室、受験のための塾(進学塾)、補習塾、家庭教師、その他

#### 第3章 体験学習 (Q7～Q9)

市区町村などが主催するキャンプ、児童館・公民館などが主催するキャンプ・お泊まり会、ホームステイ、海外留学、ボーイスカウト・ガールスカウトのメンバーで行う野外活動、海洋少年団などの団体が主催するイベント、ボランティア活動、その他

#### 第4章 ふりかえってみて感じること (Q10～Q15)

分野名	種目名
英語系	英会話などの語学教室や個人レッスン、その他
学習系	計算・かきとりなどのプリント教材教室、家庭教師、受験のための塾(進学塾)、補習塾、その他
運動系	スイミングスクール、剣道、柔道、テニス、野球、サッカー、スポーツクラブ・体操教室、バレエ、リトミック、地域のスポーツチーム、その他
音楽系	楽器、幼児向けの音楽教室、その他
習字・そろばん系	習字、そろばん
体験系	市区町村などが主催するキャンプ、児童館・公民館などが主催するキャンプ・お泊まり会、ホームステイ、海外留学、ボーイスカウト・ガールスカウトのメンバーで行う野外活動、海洋少年団などの団体が主催するイベント、ボランティア活動、その他
その他	お絵かきや造形教室、児童館など公共施設での自治体主催の教室・サークル、受験が目的ではない幼児教室やプレイルーム、その他

## 調査概要

### 1. 調査主題

学校外学習に関するふりかえり調査

### 2. 調査視点

様々な学校外学習(習い事や塾、体験学習など)を経て現在に至る大学生に、小・中学校時代にしていた学校外学習についてふりかえってもらい、その具体的な内容を明らかにするとともに、有意義だったもの(または、嫌だったもの)・具体的に受けた影響・長期的な効果などを聞いた。

### 3. 調査項目

していた習い事、最もやっていたよかったと思う習い事、月謝、交通手段、開始・終了時期、開始・終了理由、継続期間、続けているときの気持ち、最も有意義な影響を受けたと思うもの、最も嫌だった習い事、やっておけばよかった習い事、など。

### 4. 調査時期

1998年9月上旬

### 5. 調査対象

進研ゼミ高校講座経験者の中から、大学2・3年生を中心に抽出。

### 6. 調査方法

郵送法

### 7. サンプル数 1,013名 (回収率75.6%)

学年	大学1年生		大学2年生		大学3年生		大学4年生		不明
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
人数	1	1	86	264	194	462	1	0	4

※不明のうち1名は女子であるため、サンプル数を性別のみで表示する場合は上記女子合計人数より1名多い。